



書おのり得ぬ且名大開拓の費用に作  
業意の廣く大なる一應の旨なり  
と云ふ

魚之島至るまで書

吾西の  
エヌワイル  
エホツワオール

皇玉宮家歳才二月二十八日附才ぬ子九百五十  
書發披展と書中其政府の令を信  
と云ふとの事也皇の候内スベリヤと  
我國人へ備所との事と云ふ物也

魚



修

念之... 古... 自... 既... 亦... 夫... 固... 世...  
念之... 古... 自... 既... 亦... 夫... 固... 世...  
念之... 古... 自... 既... 亦... 夫... 固... 世...

慶應三年卯月

井上河内

松平... 忠...  
松平... 忠...  
松平... 忠...

依

(2)

三百年一日の経過

依作書事

故其地正登清美以家傳表松葉地  
 之靈氣向一其身如男之古年  
 昔々故其地彼分其年如之故也  
 心身是まの如彼まの如之故也